

日本プロセス化学会 2018 ウィンターシンポジウム

会期 2018年12月7日 金 会場 京都テルサ 京都市南区東九条下殿田町70

第一部 10:00 ~ 12:40 日本プロセス化学会特別企画 『君に伝えたいプロセス化学の醍醐味』

長年、プロセス化学の現場を牽引されてきた2名の熟練経験者による講演会とランチョン座談会を行います。ランチョン座談会では聴講者がスモールグループに分かれ、現役のプロセス化学研究者とともに昼食をとりながら自由に歓談します。プロセス化学研究の現状や将来について、さらに深く知ることができます。

◆ 特別講演 ◆

鴻池 敏郎 (日本プロセス化学会名誉顧問 / 元塩野義製薬株式会社生産技術研究所長)

「21世紀の薬を創り、造る」

左右田 茂 (日本プロセス化学会名誉顧問 / 元エーザイ株式会社プロセスケミストリー研究所長)

「プロセス化学は“Concurrent Science”。だから面白い!」

ランチョン座談会 (弁当を用意します)

第二部 13:00 ~ 17:20 『日本プロセス化学会 2018 ウィンターシンポジウム』

◆ 招待講演 ◆

村形 政利 (中外製薬株式会社)

「SGLT2阻害剤トログリフロジンの合成 ~効率的プロセスの開発~」

山川 一義 (富士フイルム株式会社)

「フロー法を用いる受託製造の取組み」

高須 清誠 (京都大学大学院薬学系研究科)

「合成しにくそうな分子骨格の簡便合成：ケミカルスペースの拡張にむけて」

林 雄二郎 (東北大学大学院理学研究科)

「有機合成におけるタイムエコノミーの重要性」

真島 和志 (大阪大学大学院基礎工学研究科)

「多核金属錯体触媒によるエステルおよびアミドの変換反応」

◆ JSPC 優秀賞受賞講演 ◆

越智 俊輔 (塩野義製薬株式会社)

「目的に応じた中分子ペプチド原薬 カラム精製工程の製法構築」

別役 樹 (金沢大学大学院医薬保健学総合研究科)

「トリアジン系を基盤とした単離可能なエポキシ化剤 Triazox の開発」

木村 昌寛 (中外製薬株式会社)

「マロン酸ジアルキルをプロトン源とする水素化ホウ素ナトリウムを用いたグルコース型酸素官能基配置シクロヘキセノンのダブル還元反応」

事前参加
登録締切

2018年
11月19日[月] 正午

情報交換会

会場 同会場 (京都テルサ)

時間 18:20 ~



主催：日本プロセス化学会

協賛：有機合成化学協会、分離技術会

<http://www.cdsympo.com/process2018w/>

参加申込 第一部の受講者は、主に大学生、大学院生、博士研究員、大学教員等の方を対象としており、事前参加登録が必要です。引き続き、第二部にもご参加下さい。その他の方は、第二部からご参加下さい。なお、学生・院生・教員等の方で第二部からのご参加も歓迎します。いずれの場合も上記 HP よりお申し込み下さい。

参加費 上記 HP をご覧下さい。

申込・連絡先 (株) 化学工業日報社 企画局内「日本プロセス化学会 2018 ウィンターシンポジウム」デスク
〒103-8485 東京都中央区日本橋浜町 3-16-8 TEL: 03-3663-7936 FAX: 03-3663-7861 e-mail: sympo@chemicaldaily.co.jp